



最初にお読みください

CentreCOM® AR550Sリリースノート

この度は、CentreCOM AR550Sをお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0710-00 Rev.B）とコマンドリファレンス（J613-M0710-03 Rev.D）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.9.1-11

2 重要：バージョンアップ時の注意事項

本製品を正常にご利用いただくために、最新のブートファームウェアへのアップデートを行ってください。

- 本製品の最新ブートファームウェアは、弊社 Web ページに掲載されています。
- ブートファームウェアのバージョンアップ方法の詳細は、「AR ルーター ブートファームウェア更新手順書」（弊社 Web ページに掲載）を参照してください。
- ご使用いただいている本体のブートファームウェアは、SHOW SYSTEM コマンド実行時に表示される「Boot Image」の欄で確認できます。

以前のバージョンから、ソフトウェアバージョン 2.9.1-11 にバージョンアップするときは、以下の点にご注意ください。


- セットアップツールによるバージョンアップ完了後、コンソールからログインして、以下のコマンドを実行してください。

```
set install=pref gui=5529111j.rsc
```

3 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 2.9.1-05 から 2.9.1-11 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

3.1 PPPoE における PADT 送信機能

 **【コマンドリファレンス】 / 【PPP】**

PPPoE セッション確立中に電源オフ・オンや異常リポートが発生した場合、網側の装置からは確立していたセッション ID をもったパケットが送信されますが、この際、PADT を送信し、網側装置の持つ PPPoE セッションの削除を促すよう、機能拡張しました。なお、本機能を使用するための設定は不要です。

4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 2.9.1-05 から 2.9.1-11 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 SHOW DEBUG コマンド実行時にスタックダンプを表示しませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.2 CREATE/SET TRIGGER xxx コマンドの DATE パラメーターに不正な日付を指定してもエラーにならないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.3 「SHOW INTERFACE=ppp0 COUNTERS」「SHOW INTERFACE=eth0 COUNTERS」で表示される「ifInOctets」「ifOutOctets」の値に誤りがありましたが、これを修正しました。
- 4.4 ETH インターフェースの受信が動作しなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 4.5 SET TRACE コマンドにおいて、MINTTL（最小ホップ数）に MAXTTL（最大ホップ数）より大きい値を指定してもエラーになりませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.6 TRACE コマンドにおいて、パラメーター指定が正しくないときに表示が文字化けていましたが、これを修正しました。
- 4.7 SET IP LOCAL コマンドにおいて、DHCP クライアントが接続されているインターフェース以外のインターフェースの IP アドレスが設定されている場合、BROADCAST フラグの立った DHCP Discover に対し、DHCP クライアント側に Offer を返していませんでしたが、これを修正しました。
- 4.8 RIP によるマルチパスが複数ある状況で、DELETE IP RIP INTERFACE、あるいは RIP を使用する IP インターフェースの削除を実行すると、本製品がリポートしていましたが、これを修正しました。
- 4.9 コマンドラインから「SET OSPF RIP=BOTH」を入力し、「SET OSPF RIP=EXPORT」と「ADD OSPF REDISTRIBUTE PROTOCOL=RIP」の 2 コマンドに自動変換されたあとに設定をファイルに保存し、起動時設定ファイルに指定した上で再起動すると、「ADD OSPF REDISTRIBUTE PROTOCOL=RIP」の設定が有効になりませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.10 OSPF が無効のとき、SET OSPF コマンドで BGPLIMIT パラメーターの値を変更しても、ADD/SET OSPF REDISTRIBUTE PROTOCOL=BGP コマンドの LIMIT パラメーターに値の変更が反映されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.11 PURGE OSPF コマンドを実行しても、ADD OSPF REDISTRIBUTE コマンドによる設定内容が消去されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.12 Peer から BGP Route を配信されている状態で、自身が配信している BGP Route 情報を「DELETE BGP NET=x.x.x.x」や「DELETE BGP IMPORT=xxx」で削除した場合

合に、WITHDRAW メッセージを送信しないことがありましたが、これを修正しました。


- 4.13 SET IP FILTER コマンドが正しく動作していませんでしたが、これを修正しました。
- 4.14 ポリシーベースルーティングの対象となるルートが複数設定されている場合、インターフェースタウンなどによりルートが無効になると、誤ったルートを使用して通信していましたが、これを修正しました。
- 4.15 IPv6 脆弱性 (JVNVU#267289) への対策を行いました。
- 4.16 ファイアウォールにおいて Private インターフェースとしてループバックインターフェースを指定し、Private 側のコンピューターから Telnet を実行すると接続ができませんでしたが、これを修正しました。
- 4.17 ファイアウォールルールにおいて、同じ内容の設定が複数設定可能になることがありましたが、これを修正しました。
- 4.18 Port Restricted Cone NAT 使用時の FTP (Passive モード) 通信後、ENAPT リストの削除処理中にリポートが発生していましたが、これを修正しました。
- 4.19 ファイアウォールとローカルインターフェースを併用した際に、本製品自身が送信するパケットが、NAT 処理されずに送信される場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.20 ADD FIREWALL POLICY APPRULE コマンドにおいて「APPLICATION=FTP」を指定した際、本来必要な COMMAND パラメーターを省略しても、ルールの入力が受け付けられていましたが、これを修正しました。
- 4.21 DHCP サーバーとして動作する際、DHCP Offer パケットに End Option のあとの「00」のバディングデータを付けないため、一部の DHCP クライアントで DHCP パケットを認識できませんでしたが、これを修正しました。
- 4.22 ISAKMP ポリシーの設定で PRENEGOTIATE を有効にすると、Phase-1 の Rekey が発生するまで通信ができませんでしたが、これを修正しました。
- 4.23 ENABLE INTERFACE=DYNAMIC LINKTRAP コマンドが設定できませんでしたが、これを修正しました。
- 4.24 ファイアウォールがフラグメントパケットを処理する際にリポートが発生する場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.25 OSPF 環境において、同一コストの外部経路が複数存在する場合、正しくルートテーブルに反映できませんでしたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項・注意事項

ファームウェアバージョン 2.9.1-11 には、以下の制限事項や注意事項があります。

- 5.1 「ADD DHCP6 POLICY」コマンドで DHCPv6 サーバーの設定を変更しても、サーバーから Reconfigure メッセージが送信されません。「ADD DHCP6 POLICY」コマンドの実行後、さらに「SET DHCP6 POLICY」コマンドを実行してください。これにより、Reconfigure メッセージが送信されます。
- 5.2 DHCPv6 サーバーで認証機能を使用した場合、「ADD DHCP6 KEY」コマンドの「STRICT」パラメーターが動作しません。

5.3 グラフィカル・ユーザー・インターフェース (Web GUI)

 「取扱説明書」 / 「付録」 / 「Web GUI」

- GUI 画面ではマルチバイト文字を入力しないでください。入力してもエラーメッセージは表示されませんのでご注意ください。
- GUI 画面では LAN 側インターフェース (vlan1) の IP アドレスを異なるサブネットの IP アドレスに変更しないでください。変更すると GUI に再接続できなくなることがあります。接続できなくなったときは、ルーターを再起動して変更前の IP アドレスに接続しなおすか、約 10 分待ってから変更後の IP アドレスに接続しなおしてください。
- 「クイックスタート」→「WAN」画面の「DNS リレーを使用する」にチェックを付けたときは、DNS サーバーのアドレスも入力してください。アドレスが未入力でもエラーメッセージは表示されませんのでご注意ください。
- 「クイックスタート」→「WAN」画面で PPPoE 接続の設定をすると、PPPoE インターフェースのリンク状態監視方式が「LQR」(Link Quality Reporting) になります。この設定では、インターネットサービスプロバイダー (ISP) 側の機器が LQR をサポートしていない場合にリンクダウンを検出できず、PPPoE の自動再接続機能が動きませんので、「設定」→「レイヤー 2」→「PPP」画面で「リンク状態の監視」方式を「Echo」(LCP Echo) に変更してください。

6 取扱説明書とコマンドリファレンスについて

最新の取扱説明書 (J613-M0710-00 Rev.B) とコマンドリファレンス (J613-M0710-03 Rev.D) は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記の取扱説明書とコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちの取扱説明書、コマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※ パーツナンバー「J613-M0710-03 Rev.D」は、コマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>